

同志社学校教育ネットワーク 2024年度研究会 開催報告

「同志社学校教育ネットワーク」は、同志社大学教職課程の卒業生や在学生を中心に、よりよい学校教育のあり方について共に探究する場を創出すること、ならびに、そのネットワークを広げていくことを目的として、2022年に発足しました。

2024年度の研究会では、「法と気づきで守る子どもたちの未来」をテーマとして、免許資格課程センターに関わる教員による講演会を企画いたしました。学校現場に潜在する課題について理解を深めるとともに、参加者の方からの質問に応答する形で有意義な交流が行われ、成功裡に終えることができました。ご多用のところ、ご参加・ご協力いただきました皆様に、この場を借りて、あらためて心より感謝申し上げます。

同志社学校教育ネットワークでは、毎年定期的に研究会を開催する予定ですので、ぜひ今後ともご参加・ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

■ 開催概要

日 時：2024年12月21日（土）14：00～16：40

会 場：同志社大学 今出川キャンパス・良心館206番教室（RY206）

参加者数：計39名（対面参加のみ）

合理的配慮：パソコンテイク（社会福祉法人 京都聴覚言語障害者福祉協会）

▶ 開会挨拶：茂見 岳志（同志社大学免許資格課程センター所長）

同志社大学における教職課程の現状報告や、同志社学校教育ネットワークの趣旨についての説明がなされました。

▶ 講演1：中瀬 浩一（同志社大学教授）

『きこえない！』は、理解されにくい ～学級担任に知ってほしい最近の話題～

「きこえない」のは、聴力に障害を抱える人だけではありません。「聞こえているけど聞き取れない」、つまり、聴力検査では問題がないのに、特定の条件下において話の内容が聞き取りにくいという困難を抱える人もいるとのことでした。「聞き取り困難症」「聴覚情報処理障害」などと呼ばれるもので、子どもにも多く見られるそうです。聞き返しや聞き誤りが多い、聴覚的な記憶力が弱く忘れやすいといった症状があり、学校生活では例えば、忘れ物や指示の聞き逃しにつながっている恐れがあります。近年の研究成果を踏まえながら、診断の基準や、支援の際に心がけるべきことについて、解説をいただきました。

▶ 講演2：大橋 忠司（元 同志社大学教授）

「法律に則ったいじめの対応について ～これからの教職員に求められる能力～」

2013年に「いじめ防止対策推進法」が制定されて、11年ほどが経ちました。講演の前半では、社会問題となった事件に触れながら、「いじめ」の定義がどう変遷してきたのか、認知件数がどのように推移してきたのかについて、説明をいただきました。後半では、いじめ防止対策推進法の内容に基づいて、学校で何が求められているのか、具体的な想定場面を通して解説をいただきました。社会通念上の「いじめ」と法律上の「いじめ」が異なっているという現状から、初期段階のいじめであっても組織として把握することの必要性和、先入観を持たずに想像力を働かせながら向き合うことの大切さが示されました。



■ 参加者の方からの感想（一部抜粋）

- 卒業後にも大学に来られるきっかけをいただけて嬉しい。久々に教職課程でお世話になった先生のご講演をきけて嬉しかったです。
- 学校現場や教育行政、それぞれのご経験から、説得力のあるお話が聞けました。教師を目指す方に踏まえておいていただきたいお話でした。
- 2点のトピックに対して、内容、教授のお話スタイルが異なり、あっという間に感じました。データも使い分けやすく、同時に現場での活用の仕方、心がまえを改めて確認でき有意義でした。
- 聴覚の困難を抱える生徒や、いじめの対処法について全く知らないこともあり、支援・指導の概念が変わり、タイムリーな話も聞けて非常に有意義な時間だった。
- 難聴をわずらっている生徒にとって補聴器をつけることが最も最適な対応だと思っていたので、つけると疲れると答えた生徒が多かったのは驚きました。補聴器つけているからもう大丈夫だねで終わるのではなく、その後のフォローも大切だと実感しました。
- 普段、学校で関わっている生徒のことを思い浮かべながら、支援のあり方を改めて考えることができました。
- 小学生たちと接する中で、こんな些細なことがケンカに繋がるのかと実感したばかりだったので、「いじめと認知して何がいけないのか」という言葉が本当にそうだなと感じました。小さなことでも気づいていく指導者になれたらと思いました。

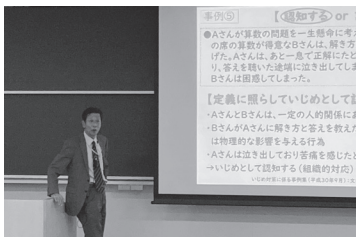
■ 講演者プロフィール

中瀬 浩一（NAKASE Koichi）



1986年大阪教育大学卒業。1986年～2015年、愛知県立千種聾学校、大阪市立中学校、聾学校、筑波技術大学等の教員。博士（学校教育学、兵庫教育大学）。2015年～現在、同志社大学免許資格課程センター。近著に「改訂 特別的教育的ニーズがある子どもの理解」（樹村房、2024）。言語聴覚士、公認心理師。

大橋 忠司（OHASHI Tadashi）



1978年大阪市立大学卒業。1979年～2015年、京都市の公立学校教員（教諭、教頭、校長、教育委員会）。2015年～2019年、同志社大学免許資格課程センター教授。現在、日本生徒指導学会関西地区研究会副会長、同志社大学嘱託講師、京都女子大学・相愛大学非常勤講師。近著に「中学校教師として生きる 第2版」（樹村房、2024）。

■ 本件に関するお問合せ先

同志社大学 免許資格課程センター事務局
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL：075-251-3208
E-mail：ji-menky@mail.doshisha.ac.jp

